

平成19年度 文部科学省委託事業 「総合的な放課後対策推進のための調査研究」

あそびの達人教室 実施報告書

(放課後活動支援モデル事業・地域の多様な主体の連携・協力)



「放課後子どもプラン」
文部科学省

財団法人青少年野外教育財団

目 次

1. 実施要項	3
2. あそびの達人教室の取組	9
①くしろ	
②さっぽろ	
③ちちぶ	
④はくさん	
⑤ひがしおうみ	
⑥きょうと	
⑦ますだ	
⑧ささぐり	
⑨くじゅう	
⑩くにがみ	
3. 各会場担当者からの報告	31
4. 参考資料	43
●各会場チラシ	
5. あとがき	57

実施要項

平成19年度 「総合的な放課後対策推進のための調査研究」実施要項

1. 運営委員会

行政関係者、学識経験者、民間団体、財団関係者などで構成される運営委員会を設置し、放課後活動支援モデル事業の在り方の検討、事業担当者や指導者等の研究会の開催、広報活動の推進、事業実施後の検証・評価等を行う。

(1) 名称

「やがい財団・放課後子どもプラン推進事業運営委員会」

(2) 委員

- ・委員長 明石 要一（千葉大学教授）
- ・委員 金木 勝己（佐倉市立王子台小学校教諭）
堀田 大（NPO法人日本エスコフィエ協会理事）
合原佳登理（社会福祉法人福岡県母子寡婦福祉連合会母子部副部長）
小林 毅（岐阜県立森林文化アカデミー教授）
藤田 正義（ムッシュ藤田オーナーシェフ）
小野寺 蔵（財団法人青少年野外教育財団専務理事）

(3) 会議

開催数：年3回（9月、11月、2月）

開催場所：東京

2. 放課後子どもプラン支援モデル事業の実施

「放課後子どもプラン」は、全国共通のネーミングの下に活動を実施する。

(1) 事業名

「あそびの達人教室 in ○○○」

(2) 主催、協力

主催 財団法人青少年野外教育財団（やがい財団）

協力 各教室を実施する団体、連携団体等

(3) モデル活動の観点

各活動拠点毎に教育委員会と地域及び民間団体等が連携し、地域の特性を活かしつつ、以下の観点から、小中学生を対象としたモデル事業を年間50日程度実施する。

- ①教育委員会及び野外教育団体、大学が相互に連携して行う活動
- ②野外教育団体及び福祉団体、民間企業が相互に連携して行う活動
- ③環境教育関係団体と社会福祉関係団体が相互に連携して行う活動
- ④教育委員会及び商店街、おやじの会等、地域の教育力の総力を挙げて行う活動
- ⑤介護施設や社会福祉施設等と連携した活動

(4) 各活動拠点における特色

①くしろ会場

連携先：教育委員会、北海道教育大学釧路校、NPO法人等

特色：子どもたちが興味をもって参加する活動種目や指導手法を開発するため、大学が持っている場や人材の提供を受け、教育委員会と大学、地域が連携して活動を展開する。

②さっぽろ会場

連携先：小学校PTA、市場、ホテル、環境アセスメント会社、母子寡婦福祉協議会等

特色：多彩な活動種目の開発と連携方策を探るため、小学校PTAが中心となり、市場で

の職業体験やホテルの協力によるクッキング教室、環境アセスメント会社の協力による環境教育事業の展開など、様々な分野の企業等と連携して実施する。また、母子寡婦福祉協議会との連携により、ひとり親の家庭の子どもたちを対象とした活動も実施する。

③ちちぶ会場

連携先：教育委員会、自然教育研究センター、埼玉県あらかわビジターセンター等

特 色：地域の自然の保全や活用等について環境教育の視点から総合的・継続的に取り組み、新たな教材やプログラムの開発を目指す。教育委員会とビジターセンターの連携の下に、学校教員の研修機会とする。

④はくさん会場

連携先：教育委員会、わらすこいもむし舎、お寺等

特 色：伝統文化の継承をテーマとして、教育委員会と民間団体、地域のコミュニティが連携して行う。お寺の敷地開放や高齢者からの生活技術の伝承などから、地域の輪を広げる効果も期待される。

⑤ひがしおうみ会場

連携先：教育委員会、環境レイカーズ、幼稚園、社会福祉団体、総合福祉センター等

特 色：異年齢集団活動を推進するため、地域の里山を中心として、身近な自然体験活動を様々な団体との連携の下に実施する。

⑥きょうと会場

連携先：環境共育カラーズ、同志社大学等

特 色：大学が持っている京都市内の「町屋」と嵐山にある「民家」を活動拠点として、大学生による指導と地域により、新たな指導手法の開発等を目指す。

⑦ますだ会場

連携先：教育委員会、ネイチャーキッズ寺子屋、おやじの会、小学校PTA等

特 色：地域の自然や文化等を総合的に体験するプログラム開発を目指し、教育委員会を中心に「おやじの会」やPTAが連携し、地域ぐるみで家庭では経験できない活動を提供する。

⑧ささぐり会場

連携先：教育委員会、商店街、社会教育センター、少年自然の家、母子寡婦福祉協議会等

特 色：施設を中心にして、新たな日帰りの活動プログラムを開発するため、社会教育の実践者や自然の家の指導者の協力を得て、自然体験・文化体験等、総合的な体験活動の推進に取り組む。

⑨くじゅう会場

連携先：教育委員会、NPO法人きらめっき〜、病院、デイケアセンター等

特 色：高齢者と子どもたちの触れあいをテーマとして、デイケアセンターを主たる活動拠点に、センターや病院の職員が指導者となり、クッキング教室やレクリエーション等を通じて、思いやりの心を学ぶ機会を提供する。

⑩くにながみ会場

連携先：教育委員会、やんばるエコツーリズム研究所、芸術家、漁師、地域の方々等

特 色：沖縄の海をテーマに、教育委員会、地域の芸術家や漁師、地域の人々の指導の下、地域の教育力を集結して、魅力あるプログラム開発を目指す。

(5) 放課後子ども教室コーディネーター等の配置

各活動拠点においては、親や地域の方々に対する参加の呼びかけや、行政や学校、関係機関、連携団体との連絡調整、指導員の人材の確保・登録・配置等を行うコーディネーターを配置し、活動の統一性を図るため、「コーディネーター会議」を開催する。(会議：年2回)

また、子どもたちの安全を確保し、活動内容の充実を図るため、各活動拠点には安全管理員(平均)2名と学習アドバイザー1名を配置する。

◎コーディネーター（10名）

- ・諫山 邦子（北海道教育大学釧路校）
- ・石高 睦月（財団法人青少年野外教育財団）
- ・小淵 幸輝（自然教育研究センター）
- ・湯原 敦子（わらすこいもむし舎）
- ・島川 武治（環境レイカーズ代表）
- ・西村 仁志（環境共育事務所カラーズ）
- ・大畑 信幸（ネイチャーキッズ寺子屋）
- ・具島 幸子（財団法人青少年野外教育財団）
- ・大久保彰子（NPO法人きらめっき〜）
- ・中根 忍（やんばるエコツーリズム研究所）

(6) 会議

開催数：年2回（10月、2月）

開催場所：東京、京都

3. 「放課後子ども教室」の実施

やがい財団の「放課後子ども教室」は、全国共通のネーミングを付けて活動を実施する。活動内容は、各教室毎に異なって良いが趣旨に添うような事業計画を作成する。

(1) 事業名

「あそびの達人教室 in○○○」

(2) 主催、後援、協力

主催 財団法人青少年野外教育財団（やがい財団）

後援 各教室毎に願います。

協力 各教室を実施する団体。

(3) 目的

現在、家庭の教育力の低下、青少年の異年齢・異世代間交流の減少、青少年の問題行動の深刻化など、子どもが育つ環境の悪化とそれに起因する問題が社会的な課題となってきた。その様な中、地域社会で子ども達を育てることが急務とされてきている。本事業では、放課後等に子どもたちに安全で健やかな居場所づくり「放課後子ども教室」を、地域の大人や民間教育事業者、行政等が連携して行うことにより、集団活動を通して、子どもたちの思いやりの心を育み、互いに協力することを学ぶ機会を提供することを目的としている。

(4) 内容

プログラム進行には、民間教育事業者がコーディネーターとして協力してもらい、地域の環境を利用した体験活動の開発や指導者の配置などのコーディネートを行ってもらうとともに、毎回、あそびの達人と題して、様々なあそびをテーマとして、学習効果をもたらすことのできる活動内容を展開する。さらに、今年度は学習アドバイザーを配置し、あそびだけではなく、学びの要素も多く取り入れたプログラム展開を行う。

また、子どもたちの指導には、開催地域の大学等と連携をして、学生達にプログラムのサポートをしてもらうことにより、高等教育機関のノウハウを活用する。

開催地には、のぼりを立て、多くの地域の人たちにこの事業に興味を持ってもらい、しいては地域の教育力活性に力を注いでいくことにつなげていきたい。

(5) 開催場所（活動拠点）、回数、対象（予定）

- ・場所／安全・安心して活動できる拠点を設ける。

※活動で別な場所に移動を行っても良いが、毎回の拠点となる場所を設ける。

- ・回数／50回程度

- ・対象／原則小・中学生を対象。

(6) 広報活動

- ・開催ポスターの作成（運営委員会で作成）
- ・案内チラシの作成
- ・新聞等を利用した広報（運営委員会で実施）
- ・ホームページを利用した広報
- ・のぼりの設置

(7) 指導体制（原則）

- ・コーディネーター 1名
- ・安全管理員（平均）2名
- ・学習アドバイザー 1名

(8) その他

今年度から「放課後子ども教室」としてスタートした。この事業は、本来、市町村への補助事業として行われるものであるが、モデル事業と言う形で一部民間教育団体に委託されるものである。従って、事業の遂行には、モデルとなる事業という考え方があることを念頭に入れ、各会場毎に特徴のある事業展開をお願いしたい。

4. 参加費について

子どもの参加費は、実費程度とする。

（保険料、材料費、移動費など）

※参加者の保険の加入については、各会場毎に行うものとする。

5. 連絡先（事務局）

〒060-0009

札幌市中央区北9条西18丁目35-89

財団法人青少年野外教育財団

担当：石 高 <e-mail: ishitaka@yagai.or.jp>

小野寺 <e-mail: onodera@yahgai.or.jp>

TEL 011-618-7772 FAX 011-618-7773

あそびの達人教室の取組

あそびの達人教室 in くしろ

北海道 釧路市

コーディネーター：諫山 邦子（北海道教育大学釧路校）

1. 年間実施回数	52回（内、2回は自主実施）	
2. 実施場所	釧路市茅野公園、桜ヶ丘小学校教室・体育館	
3. 実施日等	開催数	平日42回 休日10回
	時間	平日 14時00分～17時00分 休日 9時00分～16時00分
4. 指導者数	安全管理員	104名
	学習アドバイザー	52名
5. 参加者数	総数	1696名
	内訳	子ども 1224名 大人 472名
6. 主な活動内容	平日	サケの食育、イモの食育、肉と魚の食育、うどん打ち、そば打ち、ロープワーク、家作り、ツリークライミング、アイヌの料理、アイヌの遊び、アイヌの踊り、アイヌ語、氷遊び、氷・雪の科学、国際交流、ボール遊び、縄跳び
	休日	イワナ釣り、サイクリング、ワカサギ釣り、雪上キャンプ、ネイチャーゲーム、ツリークライミング、アイヌ民族との交流会

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	公園に遊びに来ている子どもに声をかける。3つの小学校へ、募集の案内を出す。
その効果は、	口コミで伝わったり、案内を見て、大人や子どもが実施場所を見学に来ることで参加者を確保出来た。
2. 安全対策について	
安全対策は、	必ず保険に加入してもらい、常に安全管理員が全体を見通し、参加の大人や手伝いの学生が常に子どもを見守る。救急箱をわかりやすい所に常備し、医療機関の位置を確認しておいた。活動終了後は、直ちに帰宅するように指導を行った。
その効果は、	擦り傷・切り傷が数件と、軽度のやけど1件のみであった。事件等は皆無であった。
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	小学校3校とは常に連絡を取り合い、教育委員会の指導助言をいただきながら、地域住民、釧路野外教育研究会、NPO根釧野外活動センター、桜ヶ丘ひぶなクラブ、植村直己帯広野外学校からスタッフを確保し、継続した活動を行った。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	学校の施設や学校近くの公園を活用して、放課後の児童・生徒の活動が週2回行われ、参加の子ども達も毎回の活動を楽しみにしており、活動日以外でも、特に小応援での外遊びが活発に行われていた。地域の高齢者の方々が子どもと一緒に過ごすことを楽しんだり、異世代の交流が自然な形で深まった。全体的に子ども達は、自然体験、社会体験、生活体験の学習を行うことができた。
今年度の反省点	参加費の徴収の方法が徹底出来なかったことで、全員から参加費を徴収出来ず、不均衡が生じた。
今後に向けて	20年度は、桜ヶ丘小学校を中心にした今年度の活動を継続するとともに、特に釧路市教育委員会が主導で、釧路市興津小学校を中心にした放課後の児童活動支援が行われるが、今年度の成果がそこに生かされることが予想される。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in くしろ



ブルーシートを使っておうち作りをします



おうち完成！なかなかいいカンジだね！



落ち葉の上で縄跳び。サクサク音がするよ！



餅つきをしています。早く食べたいなあ～。



地元で捕れた鮭を使った料理です。



手作りうどんを作ったよ。美味しいな～。



氷の上でのワカサギ釣り体験です。



今日はスケート！みんな上手！

あそびの達人教室 in さっぽろ

北海道 札幌市

コーディネーター：石高 睦月（財団法人青少年野外教育財団）

1. 年間実施回数	50回	
2. 実施場所	財団法人青少年野外教育財団札幌事務所	
3. 実施日等	開催数	平日 50回
	時間	平日 15時00分～17時00分
4. 指導者数	安全管理員	100名
	学習アドバイザー	50名
5. 参加者数	総数	432名
	内訳	子ども 432名
6. 主な活動内容	平日	お菓子作り・ご飯作り・ペーパークラフト・編み物・昔遊び・外遊びなど
	休日	平日のみ開催のため無し

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	近隣小学校との連携を図り、募集協力をお願いした。
その効果は、	例年、近隣小学校には多大な協力を頂いている。又昨年度までの地域子ども教室の実施の中で培ったPTAからの口コミも大きく、新たな参加者へと結びついている。
2. 安全対策について	
安全対策は、	参加に辺り、事前の確認を保護者で行う。帰りは日の入りが早いこともあり、迎えに来て貰うことを前提とする。お迎えが困難な場合は、スタッフが家まで子どもを送り、必ず玄関の中に入ることを確認。又、会場内の安全確保にも努めた。
その効果は、	入室・退室時に際しての、事故等はなし。活動中も、特に怪我などはなく、安全に活動を終えることが出来た。
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	当財団事業で協力頂いているホテルからの提供によるレシピを利用した調理活動や、ひとり親家庭や共働き家庭で保護者が不在がちな子どもの優先的参加などの配慮を行うことが出来た。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	昨年度まで開催していた地域子ども教室の定着もあり、今年度も開催を待ちかねてくれる子ども達がいる中、それらの子ども達やPTAからの評判により、新たな参加者が増えた点は成果として感じている。また、学年や学校の輪を超えた交流が生まれるのも、この事業の良い点であろう。
今年度の反省点	多彩な活動種目の展開を図るという目的の中においては、反省するべき点も多かったように思う。子ども達が無理なく参加出来る時間や費用を第一に考えた上で、各方面との連携を図っていくためにはもっと細かな動きをとっていくべきであった。
今後に向けて	放課後の居場所として、子ども達やPTA、学校からも認識して頂いているなか、次年度の継続を望む声が高い。様々な生活形態の子ども達がいる中に置いて、誰しものが気楽に安心して来ることが出来る環境作りを今後とも整えていきたい。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in さっぽろ



おやつの家の完成です！



みんな熱心に耳を傾けています。



何を焼いているのかな？



残念ながら食べられません。粘土で作ったよ。



慎重に飾りをつけているところです。



完成予想図を描いているところです。



粉をこねるのもなかなか大変な作業です。



勝者は誰かな！？

あそびの達人教室 in ちちぶ

埼玉県 秩父市

コーディネーター：小淵 幸輝（自然教育研究センター）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	埼玉県あらかわビジターセンター／飯能市立名栗小学校／東京都山のふるさと村ビジターセンター
3. 実施日等	開催数 平日 45回 休日 5回
	時間 平日 15時00分～17時00分 休日 9時00分～16時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 564名
	内訳 子ども 547名 大人 17名
6. 主な活動内容	平日 カラフル万華鏡作り、木の实クラフト、川の生き物探し、身近な不思議探し、一日リス体験、校庭の葉っぱ図鑑、おなもみあそび、生きもののカモフラージュ体験、たき火、枝のクラフト、生き物の棲家探し、秘密基地づくり、コマ作り、野鳥の羽根クラフト、雪でアイス作り、アニマルトラッキング、枯れ草のクラフト、冬の川あそび
	休日 たき火を使った野外料理、落ち葉あそび、アニマルトラッキング、丘陵ハイキング

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	あらかわ：秩父地域の全小学校へのチラシ配布及び公民館での配布を実施。 名栗小学校：学校にて、クラスごとに活動の参加者募集を実施。 山のふるさと村：青梅市及び奥多摩町の教育委員会を通じて募集を実施。
その効果は、	地域及び学校への周知は行き届いていた。特に、名栗小学校では、週に1回の活動としてコンスタントに参加者が集まった。
2. 安全対策について	
安全対策は、	スタッフへの対応としては、プログラムの進行や活動への促しだけでなく、常に安全面について十分は配慮をしながらの活動を心掛けるようにした。
その効果は、	特にけが人もなく、また、リスクマネジメントを徹底することで、スムーズな活動ができた。
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	あらかわでは、秩父市教育委員会荒川事務所との連携により、広報や活動内容の情報共有を心掛けた。名栗小学校では、各教員にも活動の周知を諮った。また、自然教育研究センターのノウハウを生かし、各々の自然や文化を活用したプログラムを展開。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	プログラムガイドの作成を目指したため、同一内容での複数開催なども試み、プログラムの質の向上を図ることができた。複数地域での開催でもあったため、より多くの場所や地域との連携も図ることができた。
今年度の反省点	教員への研修は名栗小学校での開催では達成できたと思われるが、他の地域では直接的な教員のかかわりを十分に得ることができなかった。あそびの達人教室とは別の機会を設けて研修を開催する等の工夫も必要であった。
今後に向けて	あらかわでの活動は、今後、周辺に住む子ども達の多い「荒川公民館」での活動にシフトしていきたい。名栗小学校はプログラムガイドを充実させ、教員や地域の保護者が中心に展開できるようにしていく。山のふるさと村での週末活動は、保護者との連携が必須であるため、保護者が運営に関われるような場を提供していく。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in ちちぶ



木の実を自分好みに貼っています！



夏の森は楽しさいっぱい！駆け下りろ～



みんなでカゴいっぱい！に落ち葉を集めよう！



ちゃんと火が着くか、ドキドキ・・・



秋の葉っぱはおもしろい！穴あき見つけたよ。



森に秘密基地をつくろう。まずは穴掘りだ！



炭焼きウィナーはどんな味？



学校にある落ち葉でたき火ができるのかなぁ？

あそびの達人教室 in はくさん

石川県 白山市

コーディネーター：湯原 敦子（わらすこいもむし舎）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	白峰区内の古民家（屋号：よへい）
3. 実施日等	開催数 平日 54回 休日 6回
	時間 平日 16時00分～18時00分 休日 13時00分～17時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 344名
	内訳 子ども 329名 大人 15名
6. 主な活動内容	平日 かまし（シコクピエ）入りホットケーキ作り、挽臼体験、囲炉裏で料理、行灯づくり、蜜燭づくり、カンジキでアニマルトラッキング、ソリスベリ古民家内探検、宝の地図で白峰区探検、ミニチュアカンジキづくり 昔の暮らしに挑戦（電気、ガスを使わない生活、囲炉裏を活用）
	休日 マッチの炎を育てる、マッチの炎を育てて活用する

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	・教育委員会を通して、小学校にチラシを配布していただいた。 ・今まで参加してきた子どもに対して、チラシを配布した。 ・ほとんどの場合、当日受付とした。・会場に簡易お知らせ板を設置
その効果は、	・新しい参加者が増えた。 ・活動の様子を見て、その場で参加してくる子もいた。
2. 安全対策について	
安全対策は、	危険箇所や注意事項を子ども達に事前に説明し、帰宅方法の確認を行う。活動中は、火の扱いに十分注意をするように説明。特に囲炉裏の扱いでは、常時スタッフ配置する。スタッフ間で、事前に打ち合わせと下見を実施。
その効果は、	事故や怪我も無く活動することができた。スタッフ間の安全対策への意識も高まった。
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	てんぼ塾（自然学校を作る予定の団体）が借りている古民家を貸していただき、そこを会場とした。また、てんぼ塾の方にもスタッフとして参加していただいた。特技のある人や関心のある方に声をかけ、公共施設に協力していただいた。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	会場を住民の生活空間へ移動したことから、「あそびの達人教室」への認知度や関心が昨年よりも高くなり、どのような活動をしているのか、頻繁に質問を受けた。これからエコツーリズムや自然学校を実施していこうと考えている団体と情報交換や今後この地域にどのようなプログラム・連携が必要か話し合うことができた。
今年度の反省点	参加したくても保護者が送迎できないという理由から、参加できなかった子もいた。こちらで送迎方法を検討すれば、もう少し参加者が増えただろう。
今後に向けて	認知度や関心が高まったので、子どもや大人の方が立ち寄りやすい雰囲気をもっと作っていききたい。また、このような活動を広めていく団体同士のミーティングの場として盛り上げていきたい。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in はくさん



フーフー！石釜の完成だ～！



色を探して御前山に。周りは、もう、真っ暗！



大人気の囲炉裏。暖かくて料理もできて便利だね！



あ！まずい！火が消える！夢中！集中！



囲炉裏の炎を眺めながら白峰の昔話



足元に街灯がある程雪が積もった話を聞きながら



粘土みたい！蜜蝋に火がつくのって不思議～



カンナ削りっておもしろい！近くの製材所にて

あそびの達人教室 in ひがしおうみ

滋賀県 東近江市

コーディネーター：島川 武治（環境レイカーズ）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	東近江市福祉センター「ハートピア八日市」
3. 実施日等	開催数 平日 39回 休日 11回
	時間 平日 15時00分～18時00分 休日 13時30分～16時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 926名
	内訳 子ども 926名
6. 主な活動内容	平日 自然探検 観察 ネイチャーゲーム かくれんぼ カロム カップつみ 草花遊び ごみ拾い ロープワークでブランコ作り、ボールゲーム 焼いもづくり 昆虫観察 お正月遊び
	休日 陶芸（布引焼） 自然物を利用した万華鏡作り、木登り、野外クッキング 川遊び 昆虫観察 どんぐり大会 森のクリスマス

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	年間での登録チラシ作成 3ヵ月毎の案内チラシの作成 郵送 個別の電話等の連絡
その効果は、	平日コースの木曜日 休日コースの土曜日は定員を満了したが、平日コースの火曜日は定員に満たなかった。追加募集をかけたが大幅な増員にはならなかった。
2. 安全対策について	
安全対策は、	毎回教室開始前のミーティングにて安全確認をし、教室では過失による事故がないよう気を配っている。また応急処置のための救急箱を常用している他、外での活動時に危険回避の約束をしている。万が一事故が起きた場合の連絡網も常時準備している。
その効果は、	大きな事故等もなく、教室開会中の医療機関に搬送するような怪我 病気等も起こらなかった
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	教育委員会には、募集チラシを学校単位で配布していただく。また東近江市社会福祉協議会には、場所の提供や備品の貸し出し及びボランティアの派遣をしていただく。テーマにより地域の方に講師や安全管理員になっていただいた。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	平日コースは森の中でやりたい遊びをすることに重きをおき、休日コースは毎回テーマを変え、テーマ毎にあそぶといった特徴を出した結果、日時や内容等参加者のニーズに合った安全安心の遊び場を提供できた。
今年度の反省点	里山での遊びが中心だったが、ごみ拾い以外に間伐や枝打ち、森林の講話など里山保全等のプログラムを計画してもよかった。地域の人と連携をしながら、里山を保全していく気持ちにつなげられるようにしていきたい。
今後に向けて	地域には様々な立場で本事業に協力していただける方がおり、人が人を呼んで連携を持ちながらすすめる事ができた。今後一定のチームや事業のシステム作りが出来ると、持続可能な事業に発展していくであろう。そのことにより子どもの安全・安心な遊び場の確保は地域が担うという姿勢が生まれるであろう。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in ひがしおうみ



滋賀の遊び、カロムに挑戦！



どんぐりを使って工作をしたよ。



クリスマスにサンタが登場！



森の中で葉っぱ遊び！



万華鏡で森の中の自然観察。



みんなでよーいドン！



陶芸にチャレンジ！何ができるかな？



森の中で雪遊び！「うわ、冷たい！」

あそびの達人教室 in きょうと

京都府 京都市

コーディネーター：西村 仁志（環境共育事務所カラーズ）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	同志社大学学外施設「江湖館」および「農縁館・結の家」
3. 実施日等	開催数 平日 46回 休日 4回
	時間 平日 15時00分～17時00分 休日 13時00分～16時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 874名
	内訳 子ども 804名 大人 70名
6. 主な活動内容	平日 伝承遊び、おやつ作り、ハロウィーン祭、おりがみ、自然観察、畑作業体験、焚き火、基地作りなど
	休日 茶の湯体験、墨でかこう、料理体験、レストランごっこ

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	チラシ（小学校配布、ダイレクトメール）、街頭ポスター
その効果は、	これまでの参加者の継続および、友人紹介で来ています。そのためにもチラシは重要です。
2. 安全対策について	
安全対策は、	入退室確認をしっかりとしています。親との連絡や帰りのお迎え、友人と一緒に帰るなどの徹底をはかっています。
その効果は、	特に事故や問題になった事柄はありませんでした。
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	地元自治会の方々、保護者の方々、同志社大学学生によるサポートがありました。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	学生たちの積極的な関わりがあり、ほぼ彼らを中心とした運営をすることができました。 子どもたちのメンバーも固定し、彼らの生活の中にしっかりと根付いた感があります。
今年度の反省点	地域には、この居場所を必要とする子どもたちがいるように思います。もっと情報を届けたいと思います。 また学生を中心とした運営のため、大学学校暦に影響されました。
今後に向けて	学生スタッフのスキルアップ、活動資金の確保、持続可能な運営体勢の確立をさらにはかかっていきたいと思えます。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in きょうと



アクリル毛糸でクラフト



糸電話であそびます



竹細工をならいます



まき割にちようせん



野菜のしゅうかく



いっぱい遊んで帰ります



仲良しともだちです



墨でかこう

あそびの達人教室 in ますだ

島根県 益田市

コーディネーター：大畑 伸幸（ネイチャーキッズ寺子屋）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	真砂ご縁広場
3. 実施日等	開催数 平日 45回 休日 5回
	時間 平日 15時00分～17時00分 休日 9時00分～12時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 874名
	内訳 子ども 757名 大人 117名
6. 主な活動内容	平日 薪割り、五右衛門風呂体験、竹細工、おやつづくり、稲刈り&脱穀体験、ぐるぐるパン作り、ペットボトルピザづくり、野外豆腐づくり、お店屋さん体験など
	休日 アウトドアクッキング、ぐるぐるパン作り、野外ケーキ作り、バスタづくり、ペットボトルピザづくり

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	ホームページにて募集 過去の参加者へのダイレクトメール 小学校を通じてのチラシの配布
その効果は、	過去の参加者へのダイレクトメールは、口コミで参加者が広がった。
2. 安全対策について	
安全対策は、	安全マニュアルを作成し、危機管理に努める。 地元公民館、小学校等と連携し、安全に配慮する。
その効果は、	各種関係機関との連絡がうまくいき、安全に配慮していただけた。
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	地元公民館、食生活改善員グループ、高齢者グループ、学校、PTAと連携し、様々な体験活動をつくることができた。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	野外に、五右衛門風呂や竈を手作りした広場を活用することで、外での活動を数多く取り入れることができた。
今年度の反省点	会場が市街地から外れ、中山間部であるため、多くの小学生の参加ができにくく、今後は、市街地での会場設定も考えていきたい。
今後に向けて	地域のいろいろな団体やグループ、各種機関等と連携しこのような場を設けるためには、コーディネートする人（グループ）が必要であると実感した。今後もこのようなコーディネートを続けていきたい。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in ますだ



刈った稲を干します！ みんなでリレー！



鎌を使って 「どきどき」「よいしょ」



アウトドアクッキング！ マヨネーズに挑戦！



お店屋さん体験 「いらっしゃいませ！」



野外豆腐づくりに挑戦！



おいしいざる豆腐にな～れ！



ケーキの飾り付け 「クリームなめたい…」



野外ケーキ作りに挑戦！ 鍵はペットボトル！

あそびの達人教室 in ささぐり

福岡県 糟屋郡

コーディネーター：具島 幸子（財団法人青少年野外教育財団）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	財団法人青少年野外教育財団福岡事務所 会議室
3. 実施日等	開催数 平日 46回 休日 4回
	時間 平日 15時00分～18時00分 休日 10時00分～15時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 544名
	内訳 子ども 493名 大人 51人
6. 主な活動内容	平日 オセロ作り、クリスマスカード作り、コマ・けん玉遊び、体育館遊び、チョコレートフォンデュ作り、みたらしだんご、木の実工作、絵画、ペーパクラフト、まつぼっくりツリー、クリスマスリース作り、バドミントン、ドッジボール、フリスビー
	休日 国際交流、パン作り、レクリエーション

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	活動の内容が一目で分かるような案内チラシを作り、会場周辺の小学校に配布。町内の施設等にチラシを置かせてもらった。町の広報誌の依頼。町内の大きなイベントにて開催を広報した。
その効果は、	小学校に配布したチラシを見て参加申し込みされ、その参加者のお友達からお友達と広まっていき多くの子どもたちが参加してくれた。
2. 安全対策について	
安全対策は、	保護者によるお迎えの徹底。調理をする場合は、事前につけてみてどこが危険部分かどうかどうすればスムーズにいくかを試した上で料理を行っていた。
その効果は、	大きな怪我もなく活動ができた。保護者の方々に安全の場所という安心感を共感してくれた。
3. 地域との連携について	
地域や学校との連携は、	本事業の周知協力を地域及び学校から頂いた。町長と話をし協力してもらい体育館や広場を活用することができた。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	学校や保護者の方々に活動を理解してもらったことから毎回学校帰りに立ち寄り参加する子どもが多くいたり地域の子どもの居場所として定着していった。また、違う学校の子どもの同士や保護者同士の交流場所ともなっていた。
今年度の反省点	高学年の参加者が少なく、低学年向けの活動が多くなった。それも含め今後は幅広い年齢層の子どもが気楽に参加できるようなテーマを設定し、様々な年代の方との交流を深めていきたい。
今後に向けての取り組み	来年度は、今年度の反省を活かしながら、地域との連携を強めていき、地域の方を講師に招いたり活動を広めていきたい。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in ささぐり



素敵なおクリスマスリースのできあがり！



青少年施設でのマキマキバン作り！



地域の体育館でバドミントン！



みんなチョコレートフォンデュ大～好き！！



竹炭のペンダント作り！ピカピカに磨くぞー！



さあ！力を合わせてレッツトライ！



バンラディッシュのおやつを作ろう！！



近くの公園で見つけたまっぼっくり！

あそびの達人教室 in くじゅう

大分県 竹田市

コーディネーター：大久保 彰子（NPO法人きらめっき〜）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	ヴァル・ド・グラスくじゅう
3. 実施日等	開催数 平日 45回 休日 5回
	時間 平日 15時00分～18時00分 休日 10時00分～14時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 379名
	内訳 子ども 372名 大人 7名
6. 主な活動内容	平日 宿題、おばあちゃん達のお茶配り、けん玉、折り紙、ぬりえ、風船バレー、お年玉袋作り、どんぐり拾い、餅つき体験
	休日 ・お祭りでお店屋さんを開催・野外活動（川遊び）・やきいも作り・お料理教室

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	学童保育で案内（世話人への依頼）、地元小学校へ案内配布
その効果は、	地元学童保育だけでなく、他区域の学童保育の子ども達の参加が増えた
2. 安全対策について	
安全対策は、	紙芝居形式での説明、スタッフによる安全監視、会場の整備、安全の確認、スタッフへ活動内容及び注意点の確認、安全講習会の開催
その効果は、	子どもたち自身で紙芝居説明をすることで、より安全への意識が高まり、お互いに注意するようになった
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	地域のNPO法人、伝統文化伝承グループ及び施設等の行事へ参加
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	過年度の経験を踏まえて、子ども達及び老人との交流の有意性の検証を行い成果を確認した
今年度の反省点	開催日の定時化をしているため、地域・学校などの行事と重なって子ども達から苦情があった。子ども達からはどちらかが変更すればいいのにとのこと
今後に向けて	今後は行政が行うとのことであるが、当該地区では開催されず、また地域との交流はないようで、併に行えないのか、行政と競合するのではなく補完し合う事もできるのではないかと断念である。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in くじゅう



お祭りで野菜屋さんを開店！いらっしゃいませ！



男池でわき水をくみました。すごく冷たいよ！



夕食前のお手伝い。はい、どうぞ。



ツリーハウス大好き！！



焼きいもたくさん食べました。バター味もおいしいよ！



落ち葉の山でかくれんぼ！どこにいるかわかるかな？



みんながついたお餅をいただきま〜す！



おにぎり作りに挑戦！いっぱい作ったよ☆

あそびの達人教室 in くにがみ

沖縄県 国頭村

コーディネーター：中根 忍（やんばるエコツーリズム研究所）

1. 年間実施回数	50回
2. 実施場所	安田小学校
3. 実施日等	開催数 平日 43回 休日 7回
	時間 平日 15時00分～17時00分 休日 9時00分～12時00分
4. 指導者数	安全管理員 100名
	学習アドバイザー 50名
5. 参加者数	総数 847名
	内訳 子ども 737名 大人 110名
6. 主な活動内容	平日 マリクラフト・トランプ・ギョウザ作り教室・絵を描こう・版画に挑戦・マンカラ大会・つりの仕掛け作り・つり体験・新聞で遊ぼう・ソフトテニスの練習・書道教室
	休日 空き瓶回収・海浜清掃・ヤンバルクイナの小屋作り・森に木を植える

1. 参加者の募集方法について	
募集方法は、	安田小学校へのチラシの配布を行い、募集をしました。
その効果は、	安田小学校の全員の申し込みがあった。
2. 安全対策について	
安全対策は、	フィールドの安全の確保や口頭での事前指導をした結果、注意を守り行動してくれた。
その効果は、	大きな怪我もなく終了できた。
3. 地域との連携について	
地域や各団体等との連携は、	地域に住む絵師の方との連携ができて、教室を開催することができた。海浜清掃なども多く取り入れ、地域の方とも活動を一緒にすることができた。
4. 今年度のまとめとして	
今年度の成果	地域に住む様々の技能を持つ方との連携ができたことと、学校に活動の場所を置きいろいろな連絡や調整を学校と共に行うことができた。
今年度の反省点	指導員の確保と様々なプログラムを提供できるように指導員の勉強会なども取り入れたい。
今後に向けて	海浜清掃などの活動を定期的に行うために、地域との連携して行いたい。また、子ども達には、単なるゴミ拾いだけではなく、海浜のゴミから見える環境についての勉強会なども行えるようにしたい。

子どもと子ども、子どもと大人がいっしょに遊べる環境づくり 活動写真集 in くにかみ



宿題が終わったら、何して遊ぼうかなー



手動ドリルでクラフト作りに夢中です！



ガシュマルの木に登って絵を描こう！



「こんなにたくさんにんじんいれるの〜？」



「早く大きくなーれ！」



大きいお魚を釣って、お母さんにプレゼント！



パークゴルフ大会。未来のプロ選手が出るかも



ババを持っているのはだ〜れ？

各会場担当者からの報告

あそびの達人教室inくしろ

《達人教室を開催するにあたり》

釧路における放課後活動支援モデル事業として、北海道教育大学釧路校、桜ヶ丘ひびなクラブ、桜ヶ丘小学校、興津小学校、朝陽小学校、釧路市教育委員会、NPO法人根釧野外活動センター、釧路野外教育研究会、植村直己帯広野外学校が連携をとりながら、「やがい財団・放課後こどもプラン推進事業」の取り組みを行った。事業に先立って関係の団体より担当メンバーが集まり、9月から2月までの活動内容と予定を確認しあい、連携方法およびサポート体制の調整を行った。

《活動内容について》

主として実施会場を桜ヶ丘小学校区の茅野公園および桜ヶ丘小学校校舎・体育館・グラウンド、その他近郊として、茅野公園とバスを利用して移動した近郊においては、秋から冬にかけての野外学習を行った。

特に茅野公園を中心とした活動については、当初の予定通り、食についての学習、ロープワーク、アイヌの生活文化学習、野外炊事等の基本的な生活技術の学習、雪と氷を活用しての遊びの工夫、について子どもたちが興味関心を持ち、発達年齢による違いや個人差はあるものの一定の学習の成果が認められたといえる。また、補助学生は、授業の一環として子どもひとりひとりが主体的に遊ぶことが出来るように、見守ったり、寄り添ったり、色々な企画（イワナ釣り、サイクリング、餅つき、アイヌ文化体験、雪と氷の遊び）でリーダーシップを発揮したりと柔軟な援助を行うことが出来たといえよう。さらに地域住民の方々は、子どもたちに昔話をしたり、説教をして叱ったり、時には、おやつにと汁粉や採れたての魚を提供していただき、子どもたちとコミュニケーションを楽しむ様子が見られた。くしろ会場での子どもたちは、大人に見守られながら、季節ごとの自然や仲間や公園にいる小動物と戯れ、自由な発想で自由な時間を過ごし、異世代の人々（異年齢の児童生徒、大学生、地域住民）との交流を持ちながら、生活感、自然体験、社会体験を豊かにする取り組みが出来たといえよう。

《今後の課題と取り組みについて》

参加費を半年で3千円と設定してあったが、公園には、子どもたちが三々五々集まってくるので、徴収したものと徴収していないものとの差が解消されないままに終了してしまったことが課題として残った。

次年度は引き続き、同様な活動を予定しており、さらに釧路市教育委員会では興津小学校を中心としたモデルプランの取り組みを行う予定で準備を進めている。

（報告：田丸 典彦）

あそびの達人教室inさっぽろ

《達人教室の開催に辺り》

昨年度まで取り組まれていた「地域子ども教室推進事業」のプランの中で、「あそびの達人教室inさっぽろ」は3年間取り組まれていました。その間の中で、子ども達の居場所としての認知度も高まり、今年度の開催を望む声が高まる中で「放課後活動支援モデル事業」が始まりました。活動の再開を喜ぶのは、昨年度まで来室していた子ども達だけかと思いきや、今年度入学を迎えたその弟妹達でもありました。また、子ども達やその保護者の皆様の口コミによつての新たな参加者というのは、私達スタッフにとっては、非常に嬉しいものでもありました。

《活動に取り組むに辺り》

活動では、調理活動・クラフト活動・昔遊びや外遊び等を、交互に入れていきました。その活動前には、必ず自学自習の時間を組み入れるようにしていました。ここに来ることが特別なことではなく、日常のものと捉えるためには、その時間も取り入れることが必要であると考えたからです。帰宅後の遅くなった時間で宿題等に取り組むよりも、遥かに家族とのコミュニケーションの時間も増え、効率の良い生活リズムも作ることが出来たようです。

《各方面との連携》

近隣小学校やPTAとの連携を図ることにより、毎月のお知らせをよりスムーズに行うことが出来ました。また、鍵っ子になりがちな家庭の子どもの優先的な参加を進めて参りました。また、私共の財団事業でご協力を頂いているホテル等から料理レシピを提供していただき、子ども達でも簡単に出来る調理活動を行うことが出来ました。

《今後への課題》

様々な方面との連携という意味では、不足していた部分も有り、反省材料として残ります。次年度以降への開催を望む声も高い中、その反省材料を活かして次に繋げていくこととしていきたい。

(報告：石高 睦月)

あそびの達人教室 in ちちぶ

《プログラムの開発》

「あそびの達人教室 in ちちぶ」では、様々な場所や組織との連携及び新たな教材やプログラムの開発を目指しました。また、その教材やプログラムを学校教員が授業等で使用することができるように、教員向けのプログラム化も試みました。以下に教員向けのプログラムガイドの一例を記します。(小淵)

「川の生きものさがし」		準備するもの	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・川には様々な生きものがいることを知る ・生きものの生息環境の多様性に気づく ・捕獲や観察のマナーを知る 	小さい網	イチゴバック
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな生きものがいるか、どんな場所でみつかるか、各自予想をたてて、ワークシートに記入する。 ・安全に活動するための注意(川に移動する前に) 	図鑑	生きもの検索表
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・川へ移動し、活動範囲の確認後、生きものを探す。探し方は自由だが、動かしたものは元に戻すことを徹底する。 ・小さい生きものは、ルーペやファープル(実体顕微鏡)で観察 ・捕獲した生きものは、容器に移し、観察、スケッチをする。 ・名前を知りたい子どもには、検索表や図鑑の使い方を説明して、自分で調べるようにそそのかす。 ※事前の準備が必要になるが、ペットボトルによる罟を仕掛けても面白い 	ルーペ	実体顕微鏡
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が捕獲した生きもので、各自のミニ水族館を作り、他の人のミニ水族館を見学しあう。 ・捕獲した場所について発表する。 ・捕獲した生きものを元の場所へ返す ・参加者の感想を引き出しながら、川の中の食物連鎖や水質の指標生物についての話を交えてもよい。 	濡れてもよい靴	古くなった靴下
大切にしたいこと			
川の生きものを一度捕獲して観察する活動ではあるが、生きものに直接手を触れない、生きものを入れた容器の水はこまめに交換する、動かした石は元に戻す、などのフィールドのマナーを徹底し、捕獲することだけに興味がいかないように留意したい。			

《実施してみて》

比較的、川遊びの経験がある子ども達が多かったので、川の中にはどんな生き物がすんでいるか？との質問に、ポンポンと色々な名前があがった。実際の川での活動では、皆いきいきと活動できたようだ。魚や水生昆虫を上手に捕まえる子どもが、下級生に技術指導している姿が印象的でした。活動の最後には観察させてもらった生き物達に感謝しながら、生き物達を川へ帰しました。

今回は時間の関係で実現できませんでしたが、川の上流から下流に向かってポイントを移しながら活動できると、より面白い活動になるのではないかと思います。(中村)

(報告：小淵 幸輝／中村 拓郎)

あそびの達人教室inはくさん

《会場について》

活動している様子をより多くの方の目に触れることによって、関心と協力が増えると考え、初め、白峰区内にあるお寺を予定していました。しかし改装工事などの理由により使用することが難しくなり再検討しました。施設に詳しい方や教育委員会の方などにご相談をして会場を探しました。「てんぼ塾」（地元の方の団体。今後、自然学校を作っていく予定）が古民家を借りている事、その家が集落の中心にあり活動の様子が人の目に触れやすい事、活動のテーマに沿った内容ができる事等を考慮して、「てんぼ塾」に、家を借りることと、スタッフとしての協力を依頼しました。

《関心と協力の意識を高める》

最初10、11月は、集落内に出歩く内容として、子ども達が白峰の特徴を掴むと共に活動している様子を住民の方にアピールする期間としました。会場の屋号が「よへい」といいますが、大抵の人が知っている家でしたので「あの空家で、何をしているの？」と興味を持つ人が多く、よく質問されました。日程表と行事報告を、教育委員会を通して学校へ配布していただきました。いつでも確認できるように毎月の日程表と行事報告を会場の玄関にぶら下げていました。また、旗が立っている時は実施日であると前もってお話をしました。このようなことから、住民の方への関心もより高まり、参加していない子ども達も興味が高まったようでした。関心を持っていただいて、協力の輪が広がること望んでいましたが、宿泊行事の時には、民宿の方がお風呂を提供してくださったり、あまりの寒さに驚いてストーブを貸してくださったり、協力を得られるようになってきました。環境教育や地域づくりに関心がある人、特技を持った人に声をかけて、学習アドバイザーとして参加していただきました。子ども達の送迎について、協力を得られるような工夫ができたのでは、と今になって思います。

《今後に向けて》

「来春はいつからやるの？」と聞かれることも度々あり、子どもが安心して過ごせる場所として定着できればと思います。てんぼ塾の方々と伝統や風土を活かした子ども向けプログラムについてお互いに多くのヒントを得ました。囲炉裏を囲んで打ち合わせをして、この古民家の活用方法や地域の人を巻き込んだ活動をどう広げるか情報交換も波に乗ってきました。今後、更に活動を発展させていくことを望みます。

（報告：湯原 敦子）

あそびの達人教室inひがしおうみ

《達人教室を取り巻く環境》

ハートピア八日市に接続する「五十年森」。地域の里山が愛する対象となり、安全・安心な遊び場を創出することが私たちのテーマであった。毎回の活動で、子ども達と森へ出かけ、森に触れ、森の恵を元に活動を行った。「森へ探検に行こう」と声をかけると、子ども達はワクワクした様子で集まる。森では、どんぐりやキノコ、クワガタを見つけ、蔓を引っ張り、樹に登り、落ち葉を降らせ、あちらこちらと走り回る。子ども達にとって、森は当たり前のように存在しているが、季節ごとに異なる自然があり、室内やグラウンドとは違う楽しさや面白さを提供してくれる場であると認識しているようであった。

《活動のテーマ》

森の恵を使った工作や、万華鏡を作り森の美しさを異なる角度から眺めてみたり、かくれんぼや鬼ごっこ、ネイチャーゲームなど森に住む動物の気持ちを感じる遊び、森の枯れ枝を集めての焚き火など、自由に森に触れる以外に、子ども達がより楽しさや自然との関わりを考えるようにも仕向けた。また活動終了時には、ごみ拾いを行い、森への感謝を行動で表すようにした。結果、当初は森や自然に入ることを嫌がる子どもも、どんどん森へ足を運ぶようになり、積極的に活動を行うようになるようになった。

《達人教室がもたらしたもの》

このように子ども達と様々な関わり方で、森で遊びつくす一年ではあったが、以下のような要素で自然体験ができた。

①子ども達からの発信で森と関わる。

- ・ これまでは自由な遊びやテーマ遊びをサポートから提供してきた。また、子ども達と相談しながら、子ども達の発案で遊びをつくっていくことができた。そのことによって、より子ども達が自分たちの森、大切な森との意識が芽生えた。

②子ども達が森の生態を知る。

- ・ ただ子ども達と分け入り、生き物を見つけるだけでなく、市街地に残された森として森の生態系を子ども達が調べ、知ることができた。今後はその大切さ、重要性を地域に伝えていくこと必要である。

③大好きな森を守っていく保全活動を行う。

- ・ 子ども達にとって森は「遊び」「生き物」という観点から、大切な森として、これまで以上に森の価値を高め、保全活動へとつなげていくことができた。そのことで、主体的な行動をもとに、年々悪化する地球環境問題を解決へ導く子ども達、地域が育つと考えられる。

《各方面との連携と今後に向けて》

①～③のようなことを実施していくために、ハートピア八日市の東近江市社会福祉協議会には開催会場および備品の提供をいただいた。森の所有者でもある地元自治会には、森での活動をサポートいただいた。近隣の環境教育施設である河辺いきものの森には自然の中での危険を教えていただいたり、自然活動の情報を提供いただいた。市の教育委員会には、児童へのチラシ配布等のご協力をいただき、連携を持ちながら事業をすすめる事が出来た。

さらに今後は地元青年会議所や商工課、公民館などと連携し、遊びや保全活動のイベントを行う必要があると考える。

(報告：島川 武治／池田 まさる)

あそびの達人教室 in きょうと

《実施会場について》

「あそびの達人教室 in きょうと」は、昨年に引き続き同志社大学のがオフキャンパスに開設する2つの研究拠点で開催した。ひとつは京都市内中心部の市街地内の築80年の京町家（過去2年と同学区内に位置）、もう一ヶ所は三千院や寂光院などの社寺で知られる左京区大原の里である。それぞれ週一回づつの活動および学休日の活動を開催した。両会場とも大学院生が中心となり、毎回の運営を行っている。

《活動内容について》

活動内容はそれぞれの施設の立地や特徴を活かしたものを行うことができた。京町家の「江湖館」では畳の広間や土間、中庭もある純和風の空間の中で、室内での遊びや学校の宿題、クラフトやお絵かきなどを中心とした活動、そして厨房設備や「おくどさん（かまど）」を用いた料理体験など。また田畑の広がる大原「農縁館・結の家」では農作業体験や里のいきもの（両生類、昆虫など）の捕獲、観察、刈り取りの終わったあとは隠れ家づくりなど野外を中心とした活動をのびのびと展開することが出来た。

《活動を通じての成果と今後》

両会場とも地元の子どもたちや保護者の方々に好評であり、また大学側にとっても、このプロジェクトに関わった大学生、院生、教員が具体的な地元とのつながりや子どもとのふれあう機会をもつことができ、多くの学びや成果があった。またこの実践をもとに2名の大学院生がそれぞれ学術研究論文として成果を纏めたことも収穫であった。今後も地元の方々にご協力をいただきながら、子どもたちの安全・安心で楽しい遊び場をつくっていければと考えている。

（報告：西村 仁志）

あそびの達人教室inますだ

《運営について》

あそびの達人教室 inますだでは、自然豊かな環境があり、経験豊かな高齢者がいるという特性を活かし、いろいろな方と連携して、様々な体験をつくることができました。中心となりコーディネートをしたのは、地元で親子の野外体験活動をつくる「ネイチャーキッズ寺子屋」です。このグループが中心となり、地元の公民館や高齢者グループ等との連携を進めました。

《募集について》

子どもたちの募集には、小学校やPTAに、この趣旨を理解していただき、子どもたちの参加の後押しをしていただくことができました。そして、何より、多くの知恵を持った地元の高齢者の方が、関わってくださったことが、普段家ではできないあそびや体験を子どもも達に提供できました。高齢者の方にとっても、近くにいない自分の孫世代である子どもと関わるのが喜びにもなっていたようです。

《プログラム開発について》

ネイチャーキッズ寺子屋が開発した、野外プログラムも実施できました。特に「ペットボトルピザづくり」などでは、子どもたちは大きな関心を持って体験をしていました。

《会場について》

今回は、会場として、公民館だけでなく、地元の高齢者や子どもたちとつくった「真砂ご縁門広場」を活用しました。この広場には、手作りの五右衛門風呂や、竈、焚き火のできる広場、側には小学校の校庭と、野外で様々な体験ができる環境でした。子どもたちは、この広場に来るだけで、自然と外あそびに熱中していました。場の持つ力の大切さも感じさせられました。

《今後に向けて》

今後は、今回の活動でできたネットワークを活かし、継続的な活動となることをめざしたいと思います。

(報告：大畑 伸幸)

あそびの達人教室inささぐり

《より良い放課後の居場所として》

私が小さい頃は、放課後になると広場や神社で知らない子同士でも友達になって遊んでいました。この時間は、コミュニケーションも含め、自分達で遊びを考えたり、失敗しては学ぶという大切な場でした。その思いを持ち、担当させて頂く事となりました。

活動の初めはどの子どもも緊張した様子ですが、始まる中で緊張もほぐれ、楽しく活動していました。更に居心地のよい場を提供したいと考える中、ひとつの方法として、スタッフと子ども達の間も「～さん」や「～くん」ではなく、あだ名で呼び合うことにしました。結果、子ども達はより親しみやすく話が出来るようになったようです。

《活動に取り組むに辺り》

活動では、クラフト等をする活動、おやつ作り、外遊びや物を使って遊ぶ活動を、交互に入れていきました。中にはそれぞれの活動が得意ではない子どももいましたが、新しい事に挑戦する場が無かったが故に、不得意になっている可能性があるのではと考えました。そこで、大人が焦らしたり、出来ないからやらせないのではなく、アドバイスしたり失敗を暖かく見守る事で、その子にとっての大きな糧になるという思いで、1人1人を尊重し、スタッフ一同取り組んできました。

成果としては、家の仕事を自分から手伝ったり、達人で習ったおやつを作ったり、以前より自分に自信がついたようです。

《各方面との連携》

福岡県立社会教育総合センターと連携し、募集チラシの配布や、より充実した取り組みが出来るように指導員の方にも活動の補助をお願いしました。他にも相互間の情報提供やプログラム等の共有により、幅広く充実したプログラム作りが可能になりました。

また、篠栗町の教育委員会へも周知依頼により、より多くの子ども達の参加を可能にしました。

《今後への課題》

課題としては、参加者に高学年の子どもが少なかったことです。習い事や塾に行っている子どもが多いようでした。今後の展開としては、高学年の子どもへの参加も可能なプログラム作りを検討していきたいです。篠栗町や県立の施設とより連携を深め、子ども達がより良い放課後の時間をすごせるよう、更なる充実したプログラム作りを目指していきます。

(報告：具島 幸子)

あそびの達人教室inくじゅう

《活動を行う環境》

私共の医療・介護施設では、子ども達が主体というより老人保健施設の中に子ども達が入って来て、子ども達がお年寄りの中に歩み寄りという形で行っています。

お年寄りに対しては「してはいけない事」、「してあげないといけない事」というのを考慮しながら、放課後の時間を過ごさせています。日常生活の中に少し入って、お手伝いさせていただくという気持ちを大切に行って参りました。

《活動を行うなかで》

子ども達はお年寄りに対する先入観というものはまったくなく、素直な気持ちですっとなって行きます。お年寄りにとってはただただ純粋に「かわいい」「ありがとう」という心で子ども達に接してくださいました。なかには子ども達に直接話しかけ、「あなた達が施設に来る日を、本当に楽しみにしているんだよ。」と云ってくださる方もいらっしゃいました。子ども達からはお年寄りと接し、「かわいい」と声をかけてくれる事が嬉しいといった意見が出るようになりました。このような生活を3年間繰り返してみても、子ども達のなかには優しさと満足感と喜びが芽生え、お年寄りには活力と楽しみを芽生えさせる事が出来たと思います。少子高齢化の顕著な地域において、お年寄りと子どもの2世代が交流することによりお互いの人間性を育むことが出来、医療関係者からは認知症の進行が遅くなったようだとか、行動に改善があったなどの言葉が寄せられており、家庭・学校関係者から子どもの意識変化がみられるなどの効果といえるものがあがるようです。

《今後に向けて》

今年度の遊びの達人の前半（半年間）は見込み発信で自己負担で行って参りました。後半はやがて財団の管轄で行うことになりましたが、以前の様な訳にはいかず苦労が多かったです。

来年度においては行政が行う「子ども放課後プラン」がスタートします。しかし久住での開催はなく、コーディネーターもいないという状況です。断念と言わせざるをえない状況です。

（報告：大久保 彰子）

あそびの達人教室inくにかみ

《開催に辺り》

あそびの達人 in くにかみでは、先生方や地域の方・地域在住の画家の協力を得て、開催することが出来ました。交通の不便な地で、都会の様に習い事に通う子どもは少ないのですが、情報機械の浸透により入ってくる情報は同じであり、遊びは都会と変わらず、放課後をテレビやゲーム等で過ごす子ども達が多いのが現状です。豊かな自然の中で色々なことを体験して欲しいのですが、親も昨今の世情から不安も多く、子どもが帰るまで不安な時もありましたが、この活動の説明会を行い、学校や父母の理解を頂きスタートしました。もともと父母や地域の人たちが、ソフトテニスや書道の指導などをボランティアで行っていたので、今回は自然体験活動も加えてプログラムを作り、文化・芸術・自然体験などバラエティーあふれる活動となりました。

《活動について》

芸術では、プロの画家から絵を書く前に自然を自由に見ること、心に浮かぶ思いなど、素直な表現について学んだり、巨匠の描いた絵を見せてもらい、どう見えるか、どう感じるかなど感想を発表しながら表現の自由さを学んだり、いろいろな角度から見る絵の世界を解説してもらい、版画や絵を書くことを楽しみました。

また魚釣りは、海や川が身近にありながら、遊びの中でやっている子どもがとて少なかったので、ぜひ体験をしてもらい魚釣りの面白さ、そして魚のすむ海や川の大切さを考えて貰う為にもチャレンジしました。活動は全員に釣り針に糸（ハリス）を巻く技術から覚えてもらい、それを更にサルカンに結び付けることから始めました。その後、えさの付け方、そしてリールの使い方を教え、いよいよ魚釣りの体験となりました。魚を釣りあげ、大喜びする子どもや、魚をばらしてしまい、悔しがる子どもも出て、活気あふれる活動となりました。先生も特別参加しましたが、釣り上げることができず、釣り上げた子どもにからかわれたりもしましたが、楽しい時間を共有したようで先生も喜んでいました。魚を釣る体験により、地域にいる魚のことを知り、自分で釣る楽しみを体験しました。

《今後に向けて》

活動を行う中で、地域の川や海のゴミの多さに驚き、地域の方と共に海浜清掃を行う中で、改めて自分の住む場所の素晴らしい面と、今後取り組んでいかなければならないことに気付きました。これを今後とも考えていきたいと思っています。

（報告：中根 日登美）

參考資料

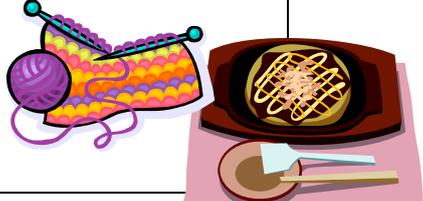
主催：やがい財団・放課後子どもプラン推進事業運営委員会
 運営：(財) 青少年野外教育財団
 協力：(株) 沿海調査エンジニアリング、(株) エコニクス、(株) 秀岳荘

『あそびの達人教室inさっぽろ』



☆ 10月の活動予定 ☆



月曜日 (15日)	火曜日 (16日)	水曜日 (17日)	木曜日 (18日)
お料理の達人! ポークおにぎり作り 15:00~17:00 参加費300円	おやつ作りの達人! いももち作り 15:00~17:00 参加費300円	おやつ作りの達人! マシュマロサンド作り 15:00~17:00 参加費300円	工作の達人! 紙粘土でミニチュア作り 15:00~17:00 参加費300円
(22日) 工作の達人! メロディ笛作り 15:00~17:00 参加費200円	(23日) お料理の達人! お好み焼き作り 15:00~17:00 参加費300円	(24日) 工作の達人! スライム作り 15:00~17:00 参加費300円	(25日) おやつ作りの達人! 蒸しパン作り 15:00~17:00 参加費300円
(29日) おやつ作りの達人! 白玉フルーツ作り 13:00~17:00 参加費300円	(30日) 工作の達人! 万華鏡作り 15:00~17:00 参加費300円	(31日) 編み物の達人! 編み針でマフラー編み 15:00~17:00 参加費200円	

《実施要項》

- 対象：小学1年生～小学6年生
 場所：やがい財団事務所（第7 藤栄ビル3階）
 参加方法：ご参加の際は、事務局にお電話にてご連絡下さい。
 お申し込みは事前の準備の都合もございますので、活動日の2日前までに下記の連絡先までお願いいたします。
 時間：平日(月・火・水・木曜日)：15:00～17:00
 土曜日：13:00～15:00
 注意事項
- ・調理の際は三角巾・エプロンをご持参下さい。
 - ・活動の前に、自習時間を設けます。宿題やドリル等あればご持参ください。判らないところに関してなど、こちらで指導いたします。
 - ・お子様の安全を確保するため、保護者の方のお迎えをお願いいたします。
 - ・お迎えの難しい日ございましたら、事前に事務局までご連絡下さい。
 - ・恐れ入りますが、各回定員を15名までとさせていただきます。

会場周辺地図



【お申し込み・お問い合わせ】

〒060-0009 札幌市中央区北9条西18丁目35-89
 やがい財団内 「あそびの達人教室 in さっぽろ」 事務局 担当：石高
 TEL：011-618-7772 FAX：011-618-7773
 メールアドレス info@yagai.or.jp

あそびの達人教室 in はくさん

あそびの達人教室 in はくさんとは、
子どもが創造性、自主性を
大切に活動できる。



平日の夕方は、くらしの知恵をあそびながら学ぼう!

小学1年～6年生 誰でも参加できるよ!



あそびの達人教室 in はくさんは、2月10日まで実施します。内容等は子ども達のアイデアにより、変更する場合があります。

活動場所

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------------

子ども達のアイデアを
「はくさん」に取り入れて活動に活用

12月のよてい

日	月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

いろりど かましホトケキ

白峰：昔からある食文化を
今アツいし
食でめめ!

① 9日、5日
石臼で、かまし粉にしめ。

② 7日、9日
かまし粉と、かて
いろりど、ホトケキを使おう!

参加費 ① 200円、② 300円
時間：16:00～18:00

ランプ作り

電気がない時代、
夜のあかりは、どうしてあつたの?
その謎を想像しながら
作ろう!

① 11日 (17日) かんぱり体験
製材所へおかけ、木を叩く(めめ!)
17日にあつて、ランプ作りで使います。

② 11日 (19日)
枝をひいてきて、木を削り時。

③ 11日 (21日) 組みあわせ作り。
鳥かごをひいてきて、木を削りながら、
あつて、かんぱりあつて、一輪は作りあつて。

参加費 ①、② 各 200円、③ 300円
時間：16:00～18:00

星に屋も 星をさす!

お友に、星の屋をみつけて、
自分星屋をさす!
(星の屋をさすお友も!)

参加費 200円
時間：16:00～18:00
雨天の場合は室内の流し場等

いろりのあるお家にとまてめめ!

ある4つのお友達が「このお家にとまてめめ!」と、計画を
立てました。ごらん(作り)は、あそびだり...
電気を使わない生活を体験してみよう!

26日 14:00～27日 11:00 参加費 3000円
★詳しい案内をご希望の方は、事務局までご連絡ください。
★参加には申込が必要となります。

★参加費には保険代、材料代、光熱代等が含まれております。★
★初めて参加する人は下記のとおり、お申し込みください。

お名前 _____ 年生 _____

保護者名 _____

住所 _____

連絡先 () _____

活動参加 同意おとす

保護者の方へ

★18:00に終了します。
帰宅方法など、お友とよく話し合ってください。
★参加していただく目的、お願ひください。
★万一：備えて、レジャーシート等には加入してください。
★お報告書等作成のため、写真撮影もします。
ご協力ください

問い合わせ先
あそびの達人教室 in はくさん
事務局
わが家のこども中心会
白山市白山市20-2-158
TEL/FAX 0761-948-2202
高原敦子

＜主催＞財団法人青い年野村教育財団
「放課後活動推進事業」(2014年度)実施
＜協力＞白山市教育委員会
＜協力＞乙人ほてい



あそびの達人教室inひがしおうみ

6月から、火・木曜日と土曜日に、東近江市児童センター(ハートピア八日市)を拠点に、「あそびの達人」がいろいろな遊びを伝授します。
みんなも、思いっきり遊んで『あそびの達人』になろう♪教室には、サポーターのお兄さん、お姉さんがいるよ★どうぞ、遊びに来てください!!

《火曜日 15:00~18:00》・・・9月からスタートします

月	日	月	日
6		11	6 13 20 27
7		12	4 11 18
8		1	8 22 29
9	4 11 27	2	5 19 26
10	2 9 16 23 30	3	4 11 18 25

《木曜日 15:00~18:00》

月	日	月	日
6	7 14 21 28	11	1 8 15 22 29
7	5 12 19	12	6 13 20
8	8月はお休みです	1	10 17 24 31
9	6 13 20 27	2	7 14 21 28
10	4 11 18 25	3	6 13

内 容 集団遊び・工作・ネイチャーゲーム・昔遊びなど、みんなでやりたい遊びをします

毎月1回、テーマに沿った遊び(ゲーム、達人大会、工作など)を行います。お楽しみに!

参加費 1日 200円(保険代等)

定 員 各曜日50名 (応募者多数の場合、抽選)

《土曜日 13:30~16:00》

日 程	テーマ	日 程	テーマ
6月16日	ゲームの達人	11月17日	木の実の達人
7月 7日	クッキングの達人	12月 8日	森の達人
7月21日	キャンプづくりの達人	12月22日	イベントの達人
8月 2日	キャンプの達人	1月 5日	お正月遊びの達人
8月 3日		1月19日	アートの達人
9月 1日	工作の達人	2月 2日	陶芸の達人
9月15日	川遊びの達人	2月16日	たき火の達人
10月 6日	昆虫の達人	3月 1日	遊びの達人 計画しよう
10月20日	チャレンジの達人	3月15日	遊びの達人 ファイナル
11月 3日	木の実の達人		

参加費 1日500円(保険代等)

内容により実費負担をいただく場合があります

定 員 40名 (応募者多数の場合、抽選)

その他 日程、テーマは変更になることがあります

参加申込み

★年間登録となります ★《火曜日》 《木曜日》 《土曜日》 各曜日へのお申込みが可能です。ハートピア八日市へお願いします。

受付期間

5月16日(水)~5月25日(金) 9:00~17:00 (電話のみ) 抽選の場合、5月28日(月)抽選。 結果は、後日郵送します

その他

*事故・怪我等のないように万全の注意を払って実施しますが、万が一の事故の場合、加入保険適用範囲内で対応いたします
*教室内で撮影した写真については、記録や広報、HP内等で掲載させていただく場合があります

お申込み：東近江市児童センター(ハートピア八日市)

東近江市今崎町21-1
TEL: 24-2940

お問い合わせ：環境レイカーズ(代表 島川)

TEL/FAX: 37-4567
E-mail: c-much@ares.eonet.ne.jp

主 催：青少年野外教育財団 あそびの達人教室運営委員会 運営主体：環境レイカーズ 東近江市児童センター



あそびの達人教室

主催：同志社大学大学院総合政策科学研究科・西村仁志研究室
協力：環境共育事務所カラーズ



同志社大学の学外研究施設の京町家「江湖館（こうこかん）」を、水曜日の放課後に子どもたちが安心して遊べる「あそび場」として開放します。下校時に保護者の方が不在がちなご家庭や自宅近くに遊べる場所がない、一緒に遊べる友人がいないお子さんなど、どうぞお越しください。もちろん友達同士誘い合わせて来ていただくのもけっこうです。あそび道具もあります。宿題もOK。

「あそびのサポーター」のお兄さん、お姉さんもいますよ。どうぞ遊びにきてください。

2007年10月～12月のスケジュール

(毎週水曜日・午後3～5時、11/14以降は午後2時45分～4時30分)

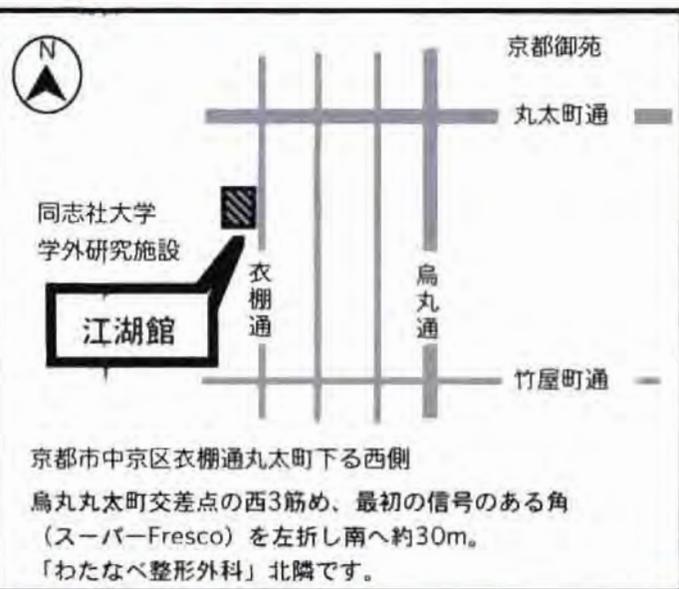
10月 3日、10日、17日、24日、31日

11月 7日、14日、21日、28日

12月 5日、12日、19日

★10月3日、10日は「お試し参加」も可です。
★その他、冬休みの特別プログラムを別途ご案内します。

会場はこちら



対象：小学校1～6年生

参加費：2,000円

10～12月(全12回)通し。部分参加、途中参加の割引はありません

傷害保険代：500円

別途、年間加入していただきます。前期(5月～7月)および夏休みプログラムに参加された方は加入済みです。

申し込み時には開室時間帯に保護者の方向伴でお越しください。参加費+保険代を受領いたします。参加登録用紙に①本人氏名、②学校学年、③保護者氏名、④ご住所・連絡先電話番号(自宅・携帯)を記入していただきます。お子様だけお越しの場合はメモをお持ちください。

お問い合わせは… 同志社大学大学院総合政策科学研究科・西村仁志研究室 TEL/FAX.075-251-4906

メール：asobi@colors.japan.com 「あそびの達人教室」ホームページ <http://www.colors.japan.com/asotatsu/>
会場連絡先/TEL.075-212-1207 (開室時間中のみ。申し込みや問い合わせはお受けできません。)

あそびの達人教室 in ささぐり

主催：やがい財団 放課後子どもプラン推進事業運営委員会 運営：財団法人青少年野外教育財団



1月のあそびの予定



「放課後活動支援モデル事業」(文部科学省委託事業)

平成19年度より、「放課後子どもプラン」がスタートしました。これは、地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれるよう、文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」と厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施されるものです。その中において、「放課後活動支援モデル事業」は、その充実を更に図るために行政のみならず民間団体が相互連携のもとに行われる年50回の事業です。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
7日  お休みだよ	8日 木の实工作の達人! オリジナル作品を作ろう 参加費100円	9日 なわとびの達人! むずかしいわざに挑戦だ! 参加費100円	10日 おかしづくりの達人! みたらしだんごを作ろう 参加費200円
14日  お休みだよ	15日 おかしづくりの達人! ホットケーキを作ろう 参加費200円	17日 木の实工作の達人! オリジナル作品を作ろう 参加費100円	18日  お休みだよ
21日 おかしづくりの達人! チョコレートケーキを作ろう 参加費200円	22日 けんだまの達人! むずかしいわざに挑戦だ! 参加費100円	23日 おかしづくりの達人! マシュマロサンド作ろう 参加費200円	24日 おかしづくりの達人! チョコレートケーキを作ろう 参加費200円
28日 おかしづくりの達人! ホットケーキを作ろう 参加費200円	29日 なわとびの達人! むずかしいわざに挑戦だ! 参加費100円	30日 おかしづくりの達人! みたらしだんごを作ろう 参加費200円	31日 けんだまの達人! むずかしいわざに挑戦だ! 参加費100円



対象：小学1年生～小学6年生
 場所：やがい財団福岡事務所(篠栗町篠栗フレセント21)
 参加方法：ご参加の際は、事務局にお電話にてご連絡下さい。
 お申し込みは事前の準備の都合もございますので、活動日の前日までに下記の連絡先までお願いいたします。
 時間：平日(月・火・水・木曜日)：15:00～18:00
 注意事項：お子様の安全を確保するため、保護者の方のお迎えをお願いいたします。
 お迎えの難しい日がございましたら、事前に事務局までご連絡下さい。



【お申し込み・お問い合わせ】
 財団法人青少年野外教育財団 福岡事務所
 〒811-2405 福岡県糟屋郡篠栗町篠栗4875
 TEL:092-948-2342 FAX:092-948-2343
 メールアドレス fukuoka@yagai.or.jp
 担当: 具島



国頭遊びの達人教室



＜文部科学省放課後活動支援モデル事業＞

少子高齢化や過疎化が進むにつれ、近所に同年齢の友達が少ない子ども達を抱える地域が増えてきている。そのため都会の子ども達ばかりではなく、地域の子も達でさえ学校から帰るとゲームやテレビなどで過ごす子ども達が増えてきており、放課後や週末を子ども同士が連れ立って遊びまわることが少なくなっている。また地域の大人の青少年への関わりが少なくなっているため、地域の教育力の低下が懸念されております。

このため、当事業を文部科学省より財団法人青少年野外教育財団が委託を受け、全国で開催することになりました。子ども達の放課後や週末に、活動アドバイザーを配置し、昔遊び・絵画教室・おやつ作り・つり教室などを予定しています。父兄の方の参加も大歓迎です。

活 動 予 定

11月1日(木) 午後6時 オリエンテーション 「安田公民館 和室」

11月～2月 ★ 毎週火・木・金曜日 安田小学校・安田集落周辺にて活動(3:00～5:00)

主 催 文部科学省委託 財団法人青少年野外教育財団

協 力 安田小学校

指 導 やんばるエコツーリズム研究所

対 象 安田小学校生及び保護者

問合せ先 : やんばるエコツーリズム研究所 TEL 0980-41-7966

き り と り
申 込 書

安田小学校 学年 児童名 _____

生年月日 年 月 日生 血液型 _____

保護者名 _____ ㊞ ※保険加入の為に記入ください

住 所 安田 番地 _____ TEL _____ ・緊急連絡先 _____

保護者の参加 (・参加できる ・時々できる ・できない)

※ お子さんに先天的な持病(アレルギー等)がありましたらご記入ください(記入できない時は、裏面もご利用下さい)

■あとかき

平成16年度から18年度まで、文部科学省の「地域子ども教室推進事業」の一環として取り組まれてきた「あそびの達人教室」は、今年度「総合的な放課後対策推進のための調査研究」の「放課後活動支援モデル事業」として引き続き継続されることとなった。3か年の中で、地域の居場所として様々な地域でこれらの活動が認識され、それぞれの団体が主体となって取り組まれているが、その居場所作りを更に促進するなかで、民間団体等と連携し、専門的な智慧や力を借りていくことによって、公的な財政措置が無くとも幅広い活動が展開されるようにモデル事業として運営されたものである。

今回、10会場がモデルとなったのであるが、それぞれの団体や連携先の特色が活かされていた。時折所用があり達人教室会場に電話連絡をすることがある。すると、電話の背景から聞こえてくるのは、子ども達の賑やかな歓声である。その声が聞こえてくるだけでも、この活動のもたらす意味があると言えるであろう。だが、ひとつ提案というより希望であるのだが、今回の10会場は、それぞれの特性を活かした中での連携先が存在した。この10会場が軸となり、枝となって様々な連携先を増やしていき、もっともっと子ども達の歓声が高らかに上がるような居場所作りが出来れば嬉しい限りである。

報告者：小野寺 蔵（財団法人青少年野外教育財団 専務理事）

平成19年度文部科学省委託事業
「放課後活動支援モデル事業」 実施報告書

平成20年2月

編集・発行 財団法人青少年野外教育財団

〒060-0009

札幌市中央区北9条西18丁目35-89

財団法人青少年野外教育財団内

TEL 011-618-7772
